



2009年(平成21年)
5月号(No. 768)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

定款の改定

「会長は理事会が選出」など

改定幅は新制度適合の最小限に

内田 博

公益法人に関する法律が全面的に改正され、昨年12月に施行された。それにともない、山岳会の基本理念でもある、定款の改定作業も進んでいる。定款委員会の委員長でもある内田博さんに、定款改定の内容と進捗状況を綴ってもらった。

世の中を活性化するには、営利企業の奮闘だけでは足りなくて、公益法人の活力も今まで以上に引き出さなければならないとして、公益法人に係わる法律が全面的に改正され、昨年12月に施行された。その経緯については、本会報でも何度か紹介してきた。ここでは、

なぜに定款の改定が必要なのかを説明し、次いで、その定款改定にこの定款委員会がどういう姿勢で取り組んできたかを述べ、最後に定款改定の検討作業は今どこまで進んでいるかを記そうと思う。

目次

定款の改定

「会長は理事会が選出」など	
改定幅は新制度適合の最小限に……	1
連続講演会「語り継ぐ日本山岳会の歴史」	
山は人との出会い——第16代会長 山田二郎氏……	4
話題の映画「劔岳 点の記」の魅力……	6
野生動物の保護と適正管理が急務……	8
東西南北……	9
積雪期における白山の登山小史	
支部だより……	10
北海道支部	
活動報告……	12
集会委員会／図書委員会	
図書紹介……	13
図書受入報告……	15
会務報告……	16
ルーム日誌……	17
会員異動……	17
INFORMATION……	18
博物館訪問……	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 …… 10～20時
水・金 …… 13～20時
第2、第4土曜日 …… 閉室
第1、第3、第5土曜日 …… 10～18時

なぜ定款の改定が必要なのか

「従来の公益法人制度では、法人のガバナンスについて詳細な規定が民法に置かれておらず、主務官庁ごとに監督が行われてきました。新制度においては、主務官庁制を廃止して準則主義を採用するに当たり、法人自らが責任を持つて自主的・自律的に運営を行っていけるよう、法律でガバナンスに関する様々な事項が明確に定められました。(中略)(新制度の法人では)」

その定款の内容が、これらの法律等の規定に適合することが必要であります」

ここに引用した文章は、内閣府が「移行認定のための『定款の変更の案』作成の案内」として開示したガイドライン冒頭の部分である。つまり、主務官庁ごとの監督

を止め、民間の自主的・自律的な活動に任せることにしたが、それは放任することではない。装いを新たにした昔の公益法人が自由闊達に活動しながらも、なおその活動が本来の目的から逸脱するところがないよう、新法はさまざまな規定を設けた。もし、日本山岳会の定款が新法の規定に合致しないところがあれば、その部分は改定しなければならぬということを述べている。

定款改定の方針

本会の定款に新法に抵触する部分があれば、その該当部分を改定しなければならぬことが明確になったので、08年6月、定款の改定を検討する委員会が設置された。この定款委員会は、7月の第1回

会合で、次の方針を立てた。

①改定は、新法の諸規定に抵触する条項に限る。改定案の作成にあたっては今の定款の文言を尊重し、改定は最小限に留める。

②現行定款のミスプリント、条項の順序の乱れなど、明らかな不具合は、新法とは関係なく訂正する。

③本会が一般社団法人をめざすのか、あるいは公益社団法人をめざすのか、これは「公益法人化プロジェクトチーム」の検討課題であり、定款委員会はその問題には一切ふれない。

蛇足ながら、なぜ、定款委員会は「その問題」にふれなくて済むのか、その理由を説明しよう。

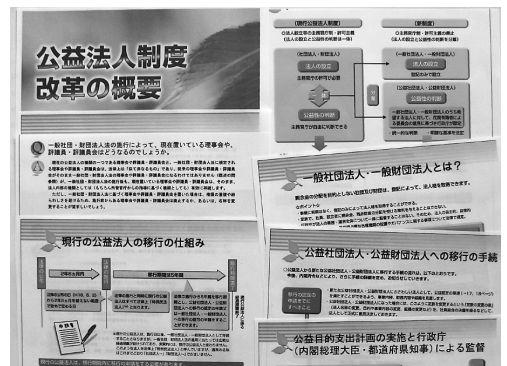
新法は3つの法律から成り立っている。

・一般社団法人及び一般財団法人に関する法律

・公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

・一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備に関する法律（以下「整備法」という）

日本山岳会の立場から、この3



内閣府から開示された「公益法人制度改革の概要」

つの法律の相互関係を思い切って単純化してしまうと次のようになる。整備法は移行期間（平成20年12月から5年間）における日本山岳会の拠るべき法律である。そこでは次のように定める。社団法人日本山岳会は、民法に基づき設立・運営されてきたが、今後、移行期間内に一般社団法人もしくは公益社団法人にならなければならない。さもなければ社団法人日本山岳会は解散することになる。

社団法人日本山岳会が一般社団法人日本山岳会になる（これを「移行する」という）には、日本山岳会が定款等自らを律する規則及びその運営方針を「一般社団法人及

び一般財団法人に関する法律」にかなうものにしなければならない。ここで、定款の改定が必要になる。

次いで、一般社団法人になった日本山岳会が、公益社団法人日本山岳会になるには「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に定める「認定」を受けなければならない。主要な認定条件は、その活動の重点が十分に公益活動に置かれているか否かである。この場合、定款の改定はその名称に冠する呼称を、一般社団法人から公益社団法人にするなどわずかで済む。

したがって、定款委員会は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の規定にそった定款改定をすれば、その使命を果たせると考えた。一般社団法人が公益社団法人かという問題に一切ふれなくても、改定作業を進めることができるかと判断した理由はそこにある。なお、ここでは便宜上、一般社団法人に移行してから、公益社団法人の認定を受けるように説明したが、公益社団法人としての諸条件を整えて、一挙に公益社団法人の認可を申請することも可能である。

検討作業はどこまで進んだか

昨年7月以来検討を重ね、本年4月の第9回検討会で、定款のどの部分が新法に抵触するか、それを拾いあげる作業が済んだ。荒削りながら改定案は一応できた。定款を補足する「細則」や本会諸規定の検討はこれからの作業であり、その作業が済むと改めて定款改定案を見直すことになる。

現段階で、明らかに改定が必要で、その意味するところが重要であると思われる事項には次のようなものがある。

【理事会の役割】

社団法人の最高意思決定機関が社員総会であることは論を待たないが、その意思を受けて日常の業務を執行するのは、総会で選任された理事である。理事は理事会を組織するが、新法はその理事会に大きな権限と責任を与えた。ここでは、その代表例を2つ記す。

①代表理事の選任

現在の定款は、代表権をもつ会長はこれを総会で選任するとしている。新法は、総会で選任された理事は理事会を構成し、その理事会が代表権をもつ理事（例えば、会長・副会長）を選出すると規定

している。よって、代表理事選任方法に関する定款を改定する必要がある。

②細則の一部条項削除

本会の定款を補足する「細則」は「会長および副会長の選挙は、その候補者を評議員会が推薦するものとする」(細則第八条)と規定しているが、この規定は理事会の権限を制限し、よって新法に抵触する。したがって、改定案では、細則のこの条項を削除することになろう。

定款や細則では、ほかでも「評議員会」に重要な位置を与えているが、これは新法の精神に抵触する。今回の改定では、評議員会のもっていた権限、機能を理事会に吸収し、評議員会にかんする諸規定を削除することになろう。

【年一回の総会】

定款では次年度の事業計画と予算案は総会承認事項となっているため、ここ数年、3月にも総会を開催してきた。新法では事業計画と予算案は理事会で決定し、総会にはその決定内容を報告することでもよいとしているので、定款改定後は年1回の総会で済むことになる。

【監事の役割】

理事会に大きな権限と責任を与えた以上、理事会が法令を遵守しているか、あるいは総会の意思を正しく理解して業務を執行しているかを監視する体制が必要であり、その役割を果たすべき監事に、新法は大きな権限を与えその地位を保護している。監事を強化するために、定款の定める2名の定員枠を増やす必要があろう。

【個人情報保護など】

今回の定款改定を機会に、本会が持つ会員の個人情報保護する規定を設けておく必要があろう。また、定款におくよりも細則で規定したほうがよい規定もしくはその逆、条文の配列を変えたほうが定款を理解しやすくなるものなど、この機会に定款、細則などを整理することも必要であらう。

今後の展開

われわれは、定款の改定は次のステップを踏んで行なわれると当初考えていた。すなわち、移行期間中に従来の監督官庁である文部科学省に定款改定案を提示し、その許可を受ける。この場合には社団法人日本山岳会としての定款改

定になる。ついで、本会が一般社団法人を目指すのか、あるいは公益社団法人を目指すのか、いずれにすべきかの決定がなされ次第、内閣府に然るべき申請をする。その時、さらに必要な改定を定款に加えることになろう。

当初はそういう展開になると予想していたが、最近の情報では、定款の改定が本会の考えているような範囲におよぶ場合には、いきなり内閣府に定款改定案を提出することになるかもしれないという。

内閣府に提出するということになるれば、その時期は本会が目指す方向(一般社団法人もしくは公益社団法人)が定まった後ということになるであろう。どのようなケースにも柔軟に対応できるように、定款改定の作業を進める必要がある。

以上定款委員会のやってきたことを簡単に記してみたが、時間のかけた割には大きな改定になっただけという感じがする。しかし、それは当初われわれが掲げた方針からして、当然の結果なのかもしれない。疑問なところ不明瞭なところが多いことを怖れるが、上記

説明について会員各位の忌憚のないご意見をいただければ幸いである。今後の検討作業の資としたい。

なお、会報『山』1月(764号(5頁))の宮下会長挨拶のなかで「改定案は早ければ5月の平成21年度総会にお諮りします」とあるが、お諮りする時期は少しずれそうである。

なお定款委員のメンバーは次のとおりである。内田博、佐野忠則、高原三平、宮崎紘一、森武昭、吉永英明(順不同)、オブザーバー、宮下秀樹。

連続講演会「語り継ぐ日本山岳会の歴史」第1回

山は人との出会い——第十六代会長 山田二郎氏

資料映像委員会 奈良千佐子

4月4日、連続講演会を開催。

この講演会は山岳会の歴史を担ってこられた諸先輩のお話を収録するのが目的である。第1回の山田二郎氏は、登山界のまさに黄金時代を過ごしヒマラヤに5回の遠征、1989年から93年までの二期4年を会長として務められた。この時、未踏峰であったナムチャバルワへの登頂が果たされた。また戦前、戦中、戦後の登山も経験されている。特にそのあたりのお話にスポットを当てて報告する。

兄と登った山から慶應山岳部へ

私は兄の影響を受け、山登りを始めた。登山の先駆者であった兄に連れられて山に行く。そしてだんだんと山に魅せられていった。

昭和18年頃だったと思うが、軍人であった父を部下が訪ねてきて「閣下、この厳しい戦争の時代に山登りなどという不埒なことをやっている者がおられるけれども、閣下はどうお考えですか」と……。父

はまさか息子が山へ行っているとも言えず、「まあ、山にもいろいろあるんじゃないか」と言って話を濁していた。

母校、慶應の山岳部の指導精神は、全体主義と重装主義、デモクラティックだった。全体主義とデモクラティックは矛盾したように思うかもしれないが、個人主義に対する全体主義。組織の一員だということが個人の考えを規制してくるのではないかというような考えかただと思う。その慶應には山岳界の重鎮が名を連ねていて、横有恒、三田幸夫さんというのは遠くから仰ぎ見るような存在だった。強く影響を受けたのは谷口現吉、加藤喜一郎さん。加藤さんとは大変気が合ったし、岩登りは2人とも得意で、彼と組んで岩登りをするのは大変気持ちがよかった。

戦中、戦後の山と人

戦中、私は学徒動員で戦車隊へ配属された。復員し家に戻り、麹



「山は人との出会いです」と語る山田二郎氏(左)

町の谷口さんのところを訪ねた。

その時、なぜだかわからないが軍刀を吊って行った。谷口さんが「二郎が軍刀を下げてやって来た」とびっくりしてた。その谷口さんが

「戦争もこういうことになってしま、自分は後輩に対してどういふことができるかといえ、やはり山登りを通じて立派な若者を育てるということではないかと思う」と話していたことを思い出す。

終戦後、諸大学の山岳部の先輩方が弱体化した山岳部を指導しよう、指導会や講習会を行なった。なかでもユニークで印象的だったのが、堀田弥一さんのピッケル講習会。堀田さんが言うには、転ぶ

時はうつむけにはなく前向きに転ぶのだから、一番早く止まるには持っているピッケルを逆さにして、小脇に抱えてピッケルが下になるようにして止めるという……。ずいぶん面白い説だなあと、ただただ驚いた。

1953年のマナスル登山は、京都大学の功績が一番だったと思う。京大だけでも行けたと思うが、全日本的な組織で行くのがいいということ、京大がマナスルの計画を丸ごと山岳会に持ち込んだ。

そして山岳会の中にヒマラヤ委員会ができて、その中から隊長、隊員などの構成を決め、三田さんが最初の隊長に就任した。

ナムチャバルワ登頂の意義

ナムチャバルワをはじめて知ったのは1940年版の『ヒマラヤン・ジャーナル』だった。本の扉を開いたらそこにナムチャバルワの写真が載っていて、なぜか強い印象を受けた。そして将来ヒマラヤへ行けるようになったらこの山へ登ろうと思った。学徒動員で戦車に乗っている時も、第一次マナスルの時もナムチャバルワのことが頭にあった。そして1991

年、ついにチャンスに恵まれた。

それまでの日本山岳会は、大学山岳部のOBが主体だった。それが1984年のカンチエンジュンガの縦走あたりから、社会人登山家の優秀な人も一緒に登るようになった。私は狭量なところがあつたが、彼らは技術も高く強い。その人たちが隊員として、中国と一緒に登れたというところに、非常に意味があつた。

1991年の第一次隊では雪崩で隊員を1人失った。その後、二次隊を出したが、最後までハラハラ連続だった。アタック態勢ができたところでしばらく悪天候が続く。上から吹雪の中を撤収して下りてくる様子がBCから見える。大丈夫かな、と思ひながら見ていたが、彼らはとても強かった。

ナムチャバルワは学生時代から憧れていた山だったので、登頂の知らせを受けた時は感慨深いものがあつた。北京での登頂祝賀会で中国の関係者に「あなた方がなかなかナムチャバルワの登山許可をくれないものだから、俺はこんな爺さんになってしまった。本当だったら一緒に上に行きたかった。でもとにかく、皆が登って無事に

帰ってよかった」そんな話をした。先鋭的登山、大遠征隊はあの頃で最後だったように思う。

そういう意味では1953年にエベレストは登られてしまったが、8000級の未踏峰もまだ残っていたし、みな希望に燃えて山と対峙していた。その時代を過ごせたのはラッキーだった。

未来へのメッセージ

今、会が抱えている高齢化問題についてはあまり気にはしていない。なぜなら山登りというのは年齢に応じてそれぞれ楽しみ方があるから。ただ、高齢者だけでは会の存続が困難だ。今後の課題は、若い人たちに魅力があるような山岳会にしていくこと。かなり難しいだろうが――。

公益法人化については、基本は山へしっかりと登るといことだろう。公益法人になっていろいろな講習をするといっても、へっぽこ教師ではしょうがない。ちゃんと山登りの基本がわかった人たちを育てていかないとけない。アルパインクラブの基本を忠実に守っていつてほしい。

私は山が好きだが、それ以上に

山を通じた仲間との出会いや付き合いのできたことが非常によかった。慶應の歓迎式で、小泉塾長が体育会の新入生に次のような話をされた。「学校の勉強をすることはもちろんだが、体育会の習練を通じて生涯の友達を得るというののも大きな意味がある」。このひと言を忠実に守ってきた。私にとつての山とは「人との出会い」だ。

講演会後の四方山話から

講演後のフリートークでは、「第一次マナスル隊の失敗は食料にあつたのでは……」との質問が向けられた。これに対し「その通りです。食料担当の私は、どんなものがヒマラヤの食事にいいのかまったくわからなかった。そこで学生の頃に読んだ外国の登山隊の報告書にあつた「食料について」を参考にした。例えばヒマラヤでは酸素が少ないから、食料を消化するのに酸素の消費量が少ない食料メニューの一覧が載っている……。それをほとんど丸写しで持つて行ったものだから、日本人の口に合わない。たちまち評判が悪くなる。こんなものが食えるかという感じで、1週間と持たない……。そこ

でびっくりしたのは、加藤泰安。彼は蒙古の遠征などの経験から、キャンプにヤクの肉でメンチボーを作つて上げてくれた。これが大変おいしかった。私が最初に持つて行った食料はことごとく不評だから、第一次の失敗は実に私の責任です」と、当時の裏話に触れ会場の笑いを誘う場面もあった。

そのほか、氏の多彩な趣味、山スキー、モーターボート、カヤック、地図の模型作りなどにも触れた。

「山とは人との出会い」という氏の言葉を裏づけるような、和氣藹々とした講演会となつた。

カルチャー

話題の映画「劔岳 点の記」の魅力

劔岳の山頂に三角点標識を設置しようと苦闘する男たちを描いた映画『劔岳 点の記』が、6月20日から全国いっせいに上映される。原作は1977年に刊行された新田次郎の同名の小説。草創期の日本山岳会の小島烏水たちも登場し「初登頂」を争う筋立てだ。

【映画のあらすじ】

前人未踏といわれ、「死の山」とも恐れられた劔岳に明治40（1907）年、不屈の闘志、献身の心、仲間の絆を信じて挑んだ男たちがいた。

そのころ陸軍は国防のため日本地図の完成を急いでいた。参謀本部測量部の柴崎芳太郎は最後の空白地点を埋めるため「陸軍の威信にかけて劔岳の初登頂と測量を果たせ」と命令を受ける。

創設間もない日本山岳会も、海外から取り寄せた最新の登山道具を装備し登頂を計画しており、「山岳会に負けてはならぬ」という厳命も受ける。

柴崎たちを案内するのは宇治長

次郎。測夫の生田信らを加えた総勢7人で周辺の山々の頂に三角点を設置し、いよいよ劔岳に臨む。挑戦を繰り返し、一步步進む柴崎たちは、無事に頂上に到達し、三角点設置の任務を終えられるのか……。

（試写会のパンフレットより要約）

そこで、試写会を観た4人の会員に見どころや感想を聞き、座談会風に編集した。発言は小野純江（女性会員）、大蔵喜福（登山・冒険家）、五十嶋一晃（登山史研究家）、成川隆頭（『山』担当理事）である。

まずは試写をご覧になった感想からどうぞ。

小野 とても感動しました。劔には別山の一般ルートから登ったので、鎖がついていても怖かったです。好きな山ですが一度登ればもういいかな、と思っています。でも、劔を見渡せる大日岳の尾根は好きで、昨年も歩いてきました。

大蔵 これほど素晴らしい天地玄黄の映像はいままで日本の映画

になかったと思います。嘘のない、そのままの自然をスクリーンに映し出した製作者の執念と行動力は凄い。

五十嶋 史実とは違うけれど、それは別にして、映像は美しく面白かった。劔岳のふもとで育った私としては、地元をPRする絶好の機会、お薦めの山岳ドラマです。

——史実と違うというのは。

五十嶋 明治40年7月に陸軍陸地測量部の柴崎芳太郎らが登ったのは確かだが、宇治長次郎が一行にいたかどうか、はっきりしない。また小島烏水がそのころ劔に登ったという記録はありません。

成川 初登頂を狙っていたのは日本山岳会の発起人のひとりである越後の高頭式（仁兵衛）です。陸軍の測量部が登ったことを知って「山岳会で先鞭をつけぬのを、非常に遺憾に思った」と、明治41年発行の『山岳』（第三年第三号）に書いています。山岳会のグループが最初に登ったのは翌42年の7月で、そのとき長次郎が一緒だった。陸軍の測量部が登ったことを知っていたと、記録にはつきり書いてあるし写真もある。

五十嶋 測量のための登山につい

ては、『日本山岳会百年史』巻頭文第1章の《測量登山と楽しみとしての登山》の項で触れられているし、山崎安治の『日本登山史』に詳しいのでお読みになるといい。

明治時代、三角測量の歴史は平地から次第に山岳地帯に広がったが、険しさや宗教上の理由もあって劔岳は残っていた。

小野 長次郎についてはどうですか。

五十嶋 劔岳をもっともよく知るひとりです。映画に描かれているように、地形や天気に対する勘が鋭く、客の安全をいつも気にかけていた案内人だったようです。伝え聞くとくところでは、登りは速いけれど平地歩きは遅かった、とか。

大蔵 映画の長次郎役、香川照之は、重心低く腰がはいって速足。疲れを知らないという感じですね。

小野 小島烏水は山で背広を着ていましたが、当時はあんな格好で登っていたのでしょうか。

成川 『写真で見る日本山岳会の100年』によると、鉢巻き、はつぴ姿の案内人と違って洋装が多い。帽子、シャツ、ズボン。烏水が背広を着ていても時代的にはおかしくないようですね。



映画『劔岳 点の記』の1シーンから

——原作は読みましたか。

小野 ずいぶん前に読みましたが、細かいことは忘れていました。山岳会が出来たのと同じ100年前の話なんですね。軍の偉い人のセリフに「山岳会は遊び半分の人たちの集まり」というのがあって、時代背景を感じさせられました。**大蔵** 遊び半分という言い方には引っかけますが、なにを好んで山に登るのかという目で見られていたのは確かです。

——原作は読みましたか。

分かります。お互いの立場を認め、成川 原作のことですが、あれは小説として読んでもらわれないと誤解を生じます。ノンフィクションではないし柴崎や長次郎の伝記でもない。烏水を登場させたのは新田次郎の創作です。険しい山に場面を借りて人間のドラマを描いたというか……。もつとも史実と違うからといって原作や映画の価値を云々するつもりはありません。

小野 小島烏水については、試写会でもらったパンフレットの人物紹介に「日本山岳会創生期に、果敢に山に挑んだ多くの登山家たちの姿を集大成したものである」と書いてありますね。小島烏水に名を借りて、当時のいわゆる登山家像を描いています。

——監督の木村さんは30年前に大ヒットした『八甲田山』のチーフカメラマンだそうですね。

大蔵 『点の記』は木村さんの監督初作品。『八甲田山』も新田さんが原作の映画（1977年）で、大勢の死者を出した陸軍の雪中行軍訓練を描いた映画です。現場主義というんでしょうか、実際の八甲田山、本物の雪、吹雪にこだわっ

たカメラマンです。それは今回も変わらない。というよりもっと徹底しようですね。

成川 『点の記』でも風雨や吹雪、滑落など山の厳しさをこれでもかこれでもかと強調する。見ていて疲れてしまう。とはいえ、春先の雪崩で一行が埋まるシーン、迫力がありますね。人工雪崩を起こして撮影したようですが、思わず身を乗り出しました。

小野 CGや空撮を使わないのが木村監督の方針と聞きました。実際に山に登る人の目線で映像を捉えようということですね。

大蔵 山の映像はすばらしいけれど映画批評家に言うのと、脚本は淡々と物語の筋を追っていて直線的、フラットな感じですね。人間関係をもう少し味わい深く見せてほしかった。測量技師・柴崎と登山家・烏水、同じ陸軍でも技官の柴崎と位の高い人、どちらもステレオタイプですね。役はこなしているけれども、人間味に欠けている感じがした。

小野 柴崎も長次郎も、美しくてしっかりした奥さんが支えています。

——劔岳が舞台だから当然でしょ

うが、山を熟知している地元の人たちが撮影を支えている。

成川 事故を起こさないよう随分と気をつけたようですね。カメラを構える場所が雪渓の上だったり岩壁の途中だったり、雪のシーズンだったり、苦労が分かります。いいアングルから撮っていて緊張感が伝わってくる。急な雪渓を鮮やかなグリーセードで下っているのはプロのガイドさんですね。

五十嶋 製作スタッフや協力者を「仲間たち」と呼んで映画の最後に字幕で紹介していた。

成川 そう、日本山岳会富山支部や周辺の山小屋、それに地元ガイドたちも名前を連ねていた。

五十嶋 撮影隊は、ロケーションした芦峯寺や、宿泊した山小屋の人たちに評判がいいんです。礼儀正しいって。飲んで大声で話した人は小屋を出てテントで議論していたそうですよ。監督がそこまで気を配っていた。作品に筋が通っているのはそのためだと。褒めすぎですか……。

『劔岳 点の記』は、6月20日から全国の東映系映画館で上映される。

ネイチヤー

野生動物の保護と適正管理が急務

山川陽一

全国的に高山帯のシカの食害が急速に拡大しています。本来、低地性動物と言われていたシカが、近年の個体数の急増により、餌場を求めて高山帯へ進出し、高山植物が全滅するなど、山岳地帯の生態系に大きな影響を与えています。

2008年、日本山岳会は、東京体育館で一般公開のシンポジウム「今、高山植物が危ない!——シカの食害について考える」を開催し、また、報告書を作成配布して、全国的に問題になっている高山帯のシカ食害対策の取り組みが緊急かつ重要であることを広く世間に訴えてきました。

南アルプスを例にとると、仙丈ヶ岳ではすでに山頂までシカが登ってきており、かつてハクサンフーロやシナノキンバイ、ミヤマキンポウゲなどの見事なお花畑が広がっていた馬ノ背周辺は、イネ科の草本やマルハダケブキなどシカが食べない植物に置き換わって、見る影もない状態になってしま

ました。

昨年、私は伊那市が主催して行なった馬ノ背ヒュッテ周辺に防シカネットを設置するボランティア活動に参加してきましたが、聞きしに勝る惨状を目のあたりにしてショックを受けました。中部森林管理署の調査報告によれば、荒川岳、塩見岳、三伏峠なども同様な状態です。北岳も高山植物帯である草スベリではかなりの食害が見られ、放置すれば仙丈のようになるのは時間の問題と地元では危機感を募らせています。

櫛形山では有名なアヤマメが全滅で、毎年行なっていたアヤマメ祭りは中止に追い込まれてしまいました。尾瀬では、今まで国立公園の特別保護地区のため捕獲が禁止されていたましたが、食害が深刻で、環境省も方針転換、今年から本格的に個体数の削減作戦が始まります。

一方、氷河期の生き残りといわれるライチョウ。かつて日本列島

が大陸と陸続きだった氷河期に日本に渡り、世界の生息域の南限といわれるこの日本で、寒冷な高山に棲家を求めて生き延びてきた貴重な鳥です。昔は日本の高山のどこでも見ることができましたが、いまや南北アルプスを中心にその数は全国で3000羽程と推定され、開発や温暖化などによる生息環境の悪化で絶滅の危機に瀕しています。

日本の大型獣の頂点に立つクマはどうでしょうか。九州ではすでに絶滅、四国でも20頭に満たない生息数と推定され、絶滅は時間の問題です。2006年は戦後最大、全国で4700頭が捕獲されたと言われますが、一方的に害獣扱いして駆除に走ることが果たして適切かどうかは、はなはだ疑問です。国の天然記念物に指定されているカモシカにも、かつて「農林業に対する害獣として駆除すべし!」の大合唱が起きた時代がありました。

これらの野生動物の棲家を活動のフィールドにするわれわれ山岳団体関係者として、その保護と適正管理は大きな関心事です。

山岳団体自然環境連絡会(日山

協、JAC、労山、都岳連、HAT-J、山のECHOの6団体の自然保護関係者の集まり)では、各団体に所属するメンバーに働きかけて、登山者が山で野生鳥獣を見かけた場合、その情報を連絡してもらい蓄積する共同システムを作り、運用することになりました。このシステムの運用は、日本全国の山岳地帯を対象に、今年4月から5年間にわたって行なうもので、集まった情報をコンピュータ上に蓄積し、データを野生鳥獣の保護や適正管理を行なっている行政機関や研究者に提供して役立ててもらおうというものです。

やり方は簡単で、登山者のみなさんが山で野生鳥獣を目撃したとき、いつ、どこで、どんな動物を見かけたかなどの簡単な情報を、PCや携帯メール、ハガキのいずれかの方法で連絡していただくだけです。

詳しくは、JACのホームページをご覧ください。トップページにある「山の野生鳥獣目撃レポート」をクリックして、ポータルサイトを開けば、具体的な連絡内容や連絡方法がガイドされます。

東 西 南 北

N

S

積雪期における白山の 登山小史

鈴木正規

日本のモン・ブランとも語られている白山の積雪期における登山史を、ここに簡単にまとめてみたい。

ひとくちに白山と言っても非常に広く、2702mの御前峰を主峰として、北に続く北白山山脈、東には三方崩山の鋭い峰、南にはピラミッド型をした別山、大日岳の別山尾根、別山より西には大長山、取立山のいわゆる加越国境の山々に連山している。

積雪期のこの方面の冬の登山は実に少ない。白山を中心とする山々または奥美濃に対する登山は限られた一部の山岳会だけが行なっていると同時に、積雪期の記録

もあまり発表されていない。

最初の冬の白山登山史はスキー登山である。1924（大正13）年2月に四高山岳部の広瀬、中島が立山の入夫、善次と兵次を連れて尾添尾根を登攀したのが初めてとされている。翌年には四高山岳部の真田、泉が市の頼側より登頂を試したが挫折し、春には金沢の竹内等が登頂している。その後、関西勢、中京勢の岳人たちによって初めて加越国境に目が向けられるようになった。翌年の春に京都の中山再次郎が、木根橋から取立山に登り、ネグラ尾根を経て市の頼、白山の登頂に成功している。

その後、戦前戦後の記録のなかには、ポーラ・メソッド、またはラッシュ・タクティックスが流行をなし、記録も一段と飛躍した感がある。

1924（昭和6）年4月、大阪医大の水野が石徹白、別山、白

山を初縦走している。1937（昭和12）年2月、3月にかけて、岐阜農高山岳部が別山尾根を試して成功している。同じくして岐阜大、中京山岳会はいずれも失敗に終わっている（別山尾根のルートの困難さと激変する天候、特に日本海より吹きつける吹雪、予想外のドカ雪が登山を不可能にしている）。

1945（昭和20）年12月から翌年1月にかけて、岐阜大山岳部が小林淳持リーダー以下12名にて別山尾根の縦走に成功している（ポーラ・メソッドを採用）。

1948（昭和23）年3月に磯野三郎以下6名が湯湧、大門山、大笠山、白山に登頂している（この記録は四高旅行部、金沢医大の誰しもが当時夢みていたものである）。

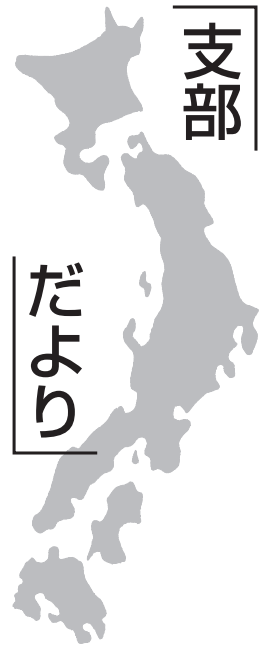
1957（昭和32）年3月、4月にかけて、小松山岳会、太田直之以下16名は湯湧を起点とし、高尾山、大倉山、大門山、天笠山、笏が岳、白山、別山、銚子が峰、石徹白、大日岳、鎌ヶ峰、檜峠、毘沙岳まで白山山系全山縦走に成功している。

1961（昭和36）年4月、金沢大学山岳部、針谷邦夫をリーダーとする8名は、大日岳、天狗山、芦倉山、丸山、銚子ヶ峰、別山、白山の白山山系南半縦走を行なっている。

1966（昭和41）年12月、翌年1月、福井大山岳部、大森義彦以下7名は、鳩ヶ湯、三の峰、別山、白山の縦走に成功している。

支部

だより



全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

北海道支部

支笏湖周辺台風災害復興
の森づくりに協力

平成16年9月8日、未明から北海道に接近した台風18号は、支笏湖周辺の森林約7000鈔を根こそぎなぎ倒した。日本山岳会100周年記念「中央分水嶺踏査」で動きはじめた北海道支部担当の千歳空港から支笏湖へ至るエリアであり、倒木処理・植樹・根ぶみ・下草刈りなど多くの団体と協力しながら苦労した4年間が経過した。「復興の森づくり実行委員会」を市民・企業・行政関係者で組織し、セブン・イレブン緑の基金の協力もあり、小中学生も参加する大きな活動となった。支部としては中央分水嶺踏査に集中しなければならぬ時期で、体が2つも3つも欲しい状態であったが、登山では得られない貴重な経験もした。特

に千歳市民の強力な暖かいサポートは嬉しかった。

このエリアの中央分水嶺踏査は、もし台風災害がなければ標高3011mほどのサイクリング・ロードがあり、1日で終了したであろう。岩稜、ハイマツ帯など困難な中央分水嶺に苦労していた北海道支部に対する「天の声」は、自然との調和の再認識であった。

3月21日に札幌コンベンションセンターで苗木伸長量測定結果報告会と感謝状贈呈会が開催された。

感謝状

社団法人日本山岳会北海道支部 殿

あなたは 支笏湖周辺台風災害・復興の森づくりプロジェクトの推進において 森の育て親として活動をいただき 森の復興に多大なご貢献をされました
よって そのご努力と成果をたたえ 感謝を表します

平成 21 年 3 月 21 日
支笏湖周辺台風災害・復興の森づくり実行委員会
実行委員長 中 田 健 一

北海道支部におくられた感謝状

会員・会友5名で出席したが、北大農学部非常勤講師・笠原三郎氏の「森の入り口を見つこう」という講演に深い示唆を受けた。パソコンや携帯電話の普及で、じっくり自然を観察する時間が失われているのか、即時性を求める短絡的思考から耐性と人間としての感性が退化していくのではないか、VTRやコピーなどの記録が多い情報化社会で、本当に理解・分析しているのか、など考えさせられた。

北海道支部は立派な感謝状と感謝記念品として「チシマザクラ苗木」の目録をいただいたが、これから森づくり活動の基本「人づくり」だと実感した次第である。

(新妻 徹)

海外委員会の委員募集

登山界もいまや国際性が避けられない時代を迎えています。国際交流、情報管理など諸外国の登山界と正しく交流し、登山情報を把握して日本山岳会のステータスを高めたい。語学のできる会員、国際理解、海外登山に興味のある会員をお待ちいたします。明るく、健康で山や自然が大好きな会員、大歓迎。

連絡先 井本重喜 (海外委員長)

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です

集会委員会

第5回土曜懇話会

1月中旬としては穏やかな天気
の1月17日午後1時から3時まで、
104号室に40名を越す会員およ
び会員以外の方々が集まり、中村
保名誉会員の講演会が開かれた。

開会に当たり、田辺前副会長に
ご挨拶をいただいた。中村保氏は
学生時代、北穂高岳滝谷グレポン
の初登攀をされるなど先鋭的な登
山をされ、1961年には一橋大
学ペルー・ポリビア遠征隊に参加。
その後は会社員として1989年
半ばに香港駐在となり、そのころ
から「ヒマラヤの東」に興味をも
たれたという。情報のない地図
の空白部で未踏の山々の探査を現
在まで続けてこられた。その成果
を、海外の山岳会のジャーナルや
JACの英文誌『Japanese Alpine
News』と、世界の山岳関係者に発

信。世界の山岳界に高い評価を得
られていると、中村名誉会員を紹介
された。

今回の懇話会のテーマは「ヒマ
ラヤの東、チベットのアルプス」。
講演は35ミのスライド約150枚
とヒマラヤの東地図3枚を使った
もので、まず「ヒマラヤの東概説」
としてチベットのアルプス、東チ
ベットの山と横断山脈についての
話。この地域にはまだ255もの
6000級級の美しい未踏峰があ
り、情報が乏しく写真もあまりな
いので、写真を発表すると欧米の
登山家から多くの問い合わせがあ
るといふ。

続いて、「2008年秋踏査、東
南チベット・四川」では、08年10
月から11月の最新の踏査の話があ
った。東南チベット・深いゴルジ
ユの国、動日夏波山塊探査は、情
報がまったくないこの山塊の探査
が主なテーマであった。当初、北



未踏の念青唐古拉山東部、ジャロンI峰 6292mの東面

面からのアプローチを計画したが、
雪が深く峠越えが出来ず、西側に
転進、外国人としては、初めて動
日夏波6090^{メートル}西面に接近した。
その後、四川省大雪山系ミニヤ・
コンカの南、幻の山6079^{メートル}ピ
ーク、人中峰の探査で、今まで地
図の上に標高のみの表示で、写真
もない幻の峰とされていたが、今
回の探査で写真撮影に成功されて
いる。

いずれにしろ、あまり知られて
いない山域の美しい山の写真、地
域の写真によって、参加者は大い
に楽しんでいった。

(下河辺史郎)

図書委員会

第39回山岳図書を語る夕べ

図書委員会の「山岳図書を語る
夕べ」は、第1回を1970年
(昭和45年)に開催。39回にあた
る今回は、カメラマンの小林尚礼
会員に「梅里雪山 十七人の友を
探して」その後、そして今」を語
っていただいた。1969年生ま
れの小林氏と「山岳図書を語る夕
べ」が、ほとんど同じ年というの
も奇遇である。

3月25日、会場の104号室で
小林氏は語り始めた。

「この部屋は感慨深い部屋です。
ちようど10年前にサラリーマンを
やめ、山岳会のガンカー・プンス
ム遠征の準備のために毎日のよう
にこの部屋に通いました。そして
その遠征から帰った直後に、梅里
雪山の搜索をする生活が始まった
ので、不思議な運命を感じます」

1991年、中国雲南省の梅里
雪山で日中合同登山隊の遭難が起
き、17名の隊員が犠牲になった。
その遭難が、氷河の末端に現われ
るまで50年から100年かかる
と思われていた。その一部が、ま
るで奇蹟のように7年後に現われ



遺体搜索の模様を語る小林尚礼さん

たのである。それから10年の間、麓の村に滞在しながら残りの遺体の搜索を続ける小林尚礼氏の記録が、3年前に上梓された『梅里雪山 十七人の友を探して』（山と溪谷社刊）だ。

小林氏の丁寧な説明は、遺体探しの経過や、村での生活、巡礼の道について、一枚ずつ写真を紹介しながら続く。村の人々の穏やかな暮らしぶり、子どもの笑顔、瑞々しくも荒々しい自然の姿を撮った写真ばかりではなく、時には胸に詰まり、息をのむ遺体搜索の写真さえもが、澄んだ静謐な美しさをたたえている。

「遺体の搜索と、写真や文章で本

にするということとは、どちらか一方だけでは10年ちかく続けてこれなかったと思います。本になるまで6年半、ほとんどの時間をこの梅里雪山という対象に打ち込んで、ようやく形になった本なのでとても愛おしい本です」

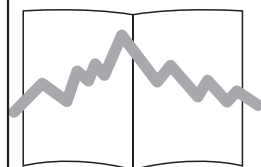
真摯な小林氏の人柄が、言葉の端々に感じられた。

50名近い参加者のうち、山岳会員以外の参加者が20名を超し、大阪新潟、松本、静岡などの遠方からの参加者も多かった。小林氏の活動と本に共感をもつ参加者の応援の気持ち、会場のそここに感じられる温かみのある会となった。

現在、小林氏は『山と溪谷』で、三江併流「茶馬古道」の6回の連載を終えたばかり。続く取材と遺体搜索のために、梅里雪山の麓の明永村へ向かっている。

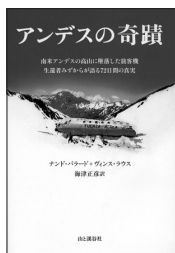
梅里雪山の遺体はあと1人を残すのみだが、地球温暖化で氷河が急激に後退し、搜索の時間はあとわずかしが残されていないという。

（三好まき子）



図書紹介

ナンド・パラード・ヴィンス・ラウス・著
『アンデスの奇蹟』
海津正彦・訳



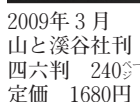
2009年3月
山と溪谷社刊
四六判 405頁
定価 2520円

1974年に翻訳・出版された『生存者』（平凡社刊）の衝撃的な内容を記憶されている方も多いだろう。これは1972年に、ウルグアイのラグビー・チームが乗った飛行機がアンデス山中に墜落した事件を基にしたもの。本書は当事者のひとりで、4000メートル級の雪山を越えて救助をもとめたナンド・パラードが語る、35年振りの新しい視点からの記録である。ひと息に読了と言うわけにはいかなかった。あまりにも深刻な内容で、雪山を越えて村人の姿を發

見するくだりにきてほつとひと息継ぐことができた。フィクションなら興味津々であつという間に読み終えることができただろうが、本書の内容が事実であることの重みが、時間をかからせた所以であらう。

ナンドの行動は、楽しみで登る登山とは違い、生命をかけた逃げ道のない挑戦であつた。彼は都会育ちの上、登山経験はまったくないが、運動神経に長けた若者だったからこそ敢行できた脱出行とも言えるが、それだけでは成功しなかっただろう。無謀ともいえる脱出行にかりたてたものは何だったか。私たちは、彼らの行動をただはらはらと見守るしかないのだ。

過酷な条件のもとに閉じこめられていた72日間の、決してきれいごとではすまない日々の生活の赤裸々な告白、若者らしく感情をむき出しにすることからくる周囲と



『怖いもの知らずの女たち』

吉永みち子・著

の軋轢、葛藤、それらを乗り越えられたものは「愛」だと、ナンドは繰り返す言う。「その後」の章でも「私には頼れるような専門技術が何もなく、だから、私は父への愛、自分の将来への愛に望みを託し、その望みに導かれて故郷にたどり着いた」と述べている。エピソードでは「人は誰にも、それぞれのアンデスがある」とも語っているが、人肉を口にしてまでも生きようとし、過酷な経験を経て、人生のなんたるかを悟った人の言葉として、味わい深いものがある。いつもながら海津氏の訳はうまい。

(泉久恵)

ところで人生の大半を生きてきた後に飛び込んだ、初めての世界。そんな「怖いもの知らず」の夢を実現させた女性たちのチャレンジの軌跡を、吉永みち子氏がたどっている。出演者は、あの登山家の田部井淳子さんをはじめ、会社役員、広報宣伝のプロ、弁護士など実に多彩だ。一人だけ、宝塚の舞台に立った経歴をもつ。

著者の吉永氏によると、怖いもの知らずには2通りある。自分のしようにしていることの本当の怖さがわからずにやってしまう「無邪気なタイプ」と、その怖さを十分わかった上で「それでも突き進むタイプ」だ。ここに集まった六人は、もちろん後者。素人が人様の前で、お金まで頂いて歌を披露するということが、どれほど「神をも恐れぬ所業」であるかはよく理解している。それでも、やることに意味を見いだしているから、あえてやってしまいうわけだ。そうした彼女らの「怖さをしっかりと見据えながら、それでも怖さに向かっていく」姿勢は、「これまでの生き方にも重なるところがある」と、吉永氏は言う。

六人が知り合ったのは、田部井

さんが主宰する、働く女性のための山の会「森の女性会議」のメンバーになったことだ。共に山歩きを楽しみながら、互いに気心を通わせていく。彼女たちは、戦前戦後をまたぐ一〇年の間に生まれている。その意味では、同じ時代背景を生きてきた同じ世代の仲間。まだ女性が職業をもつということが当たり前でなかった時代だ。今風に言えば、キャリアウーマンとして生きていくには大きな制約があり、さまざまな障害を乗り越えなければならなかった。そんな経験が、どんな状況でも諦めず断固として実行する生き方を育んだ。言い出しつべは田部井さん。ある日、おでんの鍋を囲んでいる席で、ふと「シャンソンを習ってみたいなあ」と呟いた。ただし、彼女はシャンソンがどんなジャンルの歌であるかまったく分かっていなかった。それでも、その呟きは一緒にいたメンバーたちのそれぞれに想いを掻き立て、あれよという間に先生についてレッスンが始まっていた。そして、コンサートの企画。それは、実に「これまで入り込もうにも入り込む隙間のない世界」にチャレンジする冒

険へと、全員を導いていくものとなった。

コンサート衣装だって、本物の舞台衣装にする。「開ける、透ける、光る」が衣装の三原則。最初はまだ登山家風から抜け出せなかった田部井さんも、回を重ねるにつれて、ついには「胸元を開放し、フワフワと舞い上がるような透け感をジョーゼットで表わす」すまでに飛躍を遂げていく。田部井さんの衣装の進化は、チャレンジのさと、豊かな人間としての変身を見事に象徴している。

こうした女性の生き方を、吉永氏は「男社会という男性用の整備された登山道を登れた男性たち」に對比させる。そもそも、生きるための条件が、男と女ではまったく違っていた。女性には、あらかじめ整備された道など用意されていない。だから、常に状況を見据え、「沽券」ではなく「自分」にこだわりながら、自分を生かせる道を切り拓かなければならない。行く手には、越えてはならない限界が取り囲んでいる。何よりも一歩を踏み出す勇気が求められる。そんな女性たちだからこそ、限界を踏み越えて新たな世界に飛び

出す快感を知っているのだ。そして、それが彼女たちに、怖いもの知らずの強さとしたたかさを与えている。

それは、山登りとも通じ合う。

こうした女性たちを見てみると、現代のアルピニズムの状況に思いが向かざるを得まい。これまでは、未踏峰征服といい、パイオニアワークといい、一定のアルピニズムの道が整備されていた。男たちは、そこを歩いてきたただ。だから、その道が途切れてしまうと途方に暮れてしまう。そして、アルピニズムの終焉だとか「山は死んだ」という嘆きが語られる。

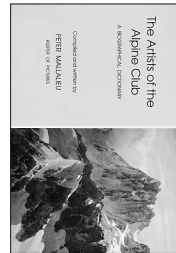
男のアルピニズムは、みずから目標を設定し、新たな地平を切り拓いていく能力を喪失しているようにには思えないだろうか。アルピニズムの再考が語られ、新たな可能性が模索されている現在、ぜひ、本書を、閉塞状況にあるアルピニズムへの挑戦状として読んでほしいと願っている。

（飯田年穂）

Peter Mallalieu・著

『The Artists of the Alpine Club』

A Biographical Dictionary



2007年
The Alpine Club
(London) 刊
16×24cm 219頁
価格 £20

アルパインクラブ関係画家事典である。扱われている画家は103人で、会所蔵の各画家の絵が1枚（ラスキンだけは6枚）ずつ紹介され、楽しい本である。

というより、絵を紹介するのが主で、その裏ページに画家の紹介文が載っている。掲載画のコメントもないし、芸術的評価もない。例外としてラスキンの絵については説明が載っているが、基本的には山岳画集ではなく、タイトルどおり、アルパインクラブ所蔵山岳画家事典である。付録として、レディーズ・アルパインクラブの画家、及び本文で扱わなかった所蔵絵画の画家の紹介、参考文献などが付いている。編著者は、英国山岳会所蔵絵画の保存責任者で、数多くの展示会を行なっている。この本の発行も、そのような活動の

一つであろう。

再び言うが、これは芸術としての山岳画鑑賞のための画集ではない。名画だけを集めた画集ではない。主としてアルパインクラブ会員の山岳画集である。主としてアマチュア画家の画集である。それなのに、僕らの心に訴える力があるのはなぜだろうか。それは山が好きだからだ。画家も登山愛好者であり、見る人も登山愛好者だからであろう。ヤングの言うように、アルピニストは山に登るだけではなく、山について考える人である。山の絵を描き、そして見ることは、登山者の資質の一部なのである。

編著者が会所蔵の絵を愛し、紹介するのも、当然のこととして納得できる。とはいっても、その努力に対して感動する。日本山岳会の図書を預かる者として、この本を手にとって、内心忸怩たるものがある。会所蔵の図書についても、一般に紹介する努力をしないからである。

いずれにしても、ページをめくるだけでも楽しい本である。今までまったく知らない画家の山岳画を美しい印刷で見ることができ

（水野勉）

図書受入報告（2009年4月）

著者	書名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈／購入別
ベルニナ山岳会（編）	BERNINA（ベルニナ）59・60——創立60周年記念号	179p／26cm	ベルニナ山岳会	2008	発行者寄贈
梶田明（編）	山と谷へ 2009——中京山岳会創立75周年記念事業	260p／30cm	中京山岳会	2009	発行者寄贈
玲峰グループ（編）	玲峰（Vol.78）——玲峰グループ創立55周年記念号	138p／30cm	玲峰グループ	2009	発行者寄贈
真栄隆昭	山文よもやま話——広報大聖寺掲載小品集	27p／30cm	真栄隆昭（私家版）	2009	著者寄贈
箕岡三穂（編）	フォーラム「登山を楽しくする科学」（2009年2月28日）	24p／30cm	日本山岳会科学委員会	2009	当会発行
三宅修（写真） 正津勉（文）	山川草木	110p／16×21cm	白山書房	2009	著者寄贈
Mathews, Charles Edward	The Annals of Mont Blanc——A Monograph	368p／23cm	T.Fisher Unwin	1898	一橋大針葉樹会寄贈
Shairp, John Campbell (et als)	Life and Letters of James David Forbes, F.R.S.	598p／23cm	Macmillan	1873	一橋大針葉樹会寄贈



平成21年度第1回(4月度) 理事 会議事録

日時 平成21年4月8日18時30分
～20時30分

場所 日本山岳会会議室

【出席者】 宮下会長、神崎副会長、
吉永・宮崎・成川各常務理
事、斎藤・藤井・石橋・古
野・太田・堀井・相馬・山
川・岡部各理事、深川・竹
中各監事、河野・近藤各常
任評議員

【委任】 鯉坂副会長

【欠席】 日下田常任評議員

【審議事項】

1・平成21・22年度役員(理事・
評議員)候補について(会長)

心に深く期することがあり会長
を辞することになった。今までの
ご協力に対し感謝申し上げる。5
月末まで全力投球をしたいので従

前どおりよろしく願いたい。

人事の若返りを図るのが緊急の課
題だろうとの挨拶があったのち、
理事・評議員候補者について常務
理事会で整理した案が提示された。
なお、会長及び副会長については
会長経験者・前副会長の意見を聞
いたうえ、4月18日に開催される
評議員会に諮る。(承認)

2・平成20年度事業報告(案)につ
いて(宮崎)

平成20年度事業報告(案)の説明
があり、平成21年度第1回通常総
会議案として承認された。(承認)
3・平成20年度決算報告(案)につ
いて(吉永)

収支計算書(案)、正味財産増減
計算書(案)、貸借対照表(案)およ
び財産目録(案)の説明があり、平
成21年度第1回通常総会議案とし
て承認された。(承認)

4・高尾の森づくりの会からの回
答について(宮崎)

3月25日付にて再回答があり、
常務理事会で検討の結果受理する
こととした。こうした経緯につい
ては、高尾の森づくりの幹部だけ
でなく、より多くの関係者に経緯・
回答内容について周知徹底を図る
ことを指示、申入れを了解した旨
の回答があった。現状の整理がつ
くまでの間自然保護委員会より常
務理事会預かりとする。(承認)

て(宮崎)
中部地方環境事務所から56・65
平方メートルの土地使用の許可が3月12
日付にてあった。なお、山岳研究
所使用土地の大半は営林署所轄で
ある。

5・日本山岳会マークの使用につ
いて(宮崎)
茨城支部から当該支部専用封筒
を作成し日本山岳会マークを使用
したい旨の許可申請があった。(承
認)

4・谷川岳危険地区の登山禁止に
ついて(宮崎)
群馬県から谷川岳危険区域全域
について3月23日から5月1日の
間、県谷川岳遭難防止条例に基づ
く登山禁止の連絡があった。

【報告事項】

1・谷川岳山岳資料館寄贈図書に
ついて(岡部)

重複図書の整理が整ったので、
谷川岳山岳資料館に寄贈する。

2・水野駐ネパール大使の講演会
および同大使との懇談会開催につ
いて(吉永)

開催(3月25日、千代田区の主
婦会館)案内があり、吉永常務理
事が出席した。

3・中部山岳国立公園上高地集団
施設地区内の土地使用許可につい

て(宮崎)
中部地方環境事務所から56・65
平方メートルの土地使用の許可が3月12
日付にてあった。なお、山岳研究
所使用土地の大半は営林署所轄で
ある。

5・「確認依頼」供養塔の所有につ
いて(宮崎)
文部科学省から供養塔所有の有
無の調査依頼があった。

6・第52回高頭祭、出席依頼につ
いて(宮崎)
越後支部から会長宛て出席およ
び講演依頼があった。開催は7月
25日であり今後検討し回答する。

7・商標権更新登録申請および書
換登録申請の報告(宮崎)
所有の商標権2件のうち「社団
法人 日本山岳会」が今年6月29
日に存続期間満了になるため更新
手続きをした。

8・年次晩餐会について(宮崎)
21年度の年次晩餐会(12月5日
予定)は、グランドプリンスホテ

ル新高輪の「飛天」の間で行なう
方向で会場の仮予約をした。

9・春山天気予報について（古野）

冬山天気予報が好評であったので、ゴールデンウィークを中心に（4月25日～5月10日）春山の天気予報を運用提供する。予報区域は冬山の場合に同じ。

10・『山』4月号編集報告（成川）

ル・ム・目・誌 4月

1日 常務理事会 集会委員会

山岳地理クラブ

2日 アルパインフォトビデオク
ラブ 101の会

3日 定款検討委員会 図書管理
委員会

4日 資料映像委員会

6日 総務委員会 高尾の森つく
りの会 アルパインスキ
ークラブ

7日 図書委員会 アルパインス
ケッチクラブ

8日 理事会 山想倶楽部 九五会

9日 自然保護委員会 山の自然
学研究会

10日 千葉支部

13日 学生部 アルパインスキー
クラブ

14日 会報編集委員会 アルパ
インスケッチクラブ

15日 三水会 つくも会

16日 科学委員会 学生部

18日 常務理事会 評議員会

20日 総務委員会 資料映像委員
会 アルパインフォトビ
デオクラブ

21日 山岳研究所運営委員会 ア
ルパインスキークラブ 00会

22日 自然保護委員会 麗山会

23日 山遊会

27日 アルパインフォトビデオク
ラブ

28日 インターネット小委員会
千葉支部 01会

4月来室者558名

会員異動（4月）

物故

山口俊輔（4976） 09・4・20

岡田光行（5959） 09・4・9

柿崎謙介（12297） 09・3・6

退会

小久保芳宏（9888） 東海

木之下繁（10341） 京都

森山公博（13178）

終身会員

津田保太郎（6734）

I N F
O R M

インフォメーション

A T I
O N

◆温泉と高山植物を楽しむ山旅

集友委員会

高峰温泉に1泊、麓ノ登ノ池ノ平ノ湯の丸高原へ約5時間の歩行
日程 7月5日(日)～6日(月)
集合 5日(日)15時30分 高峰温泉
解散 6日(月)15時 湯の丸高原
費用 2万円(1泊2食、懇親・昼食・保険・通信費他)
定員 20名
申込 6月10日までに、米村文比
古宛 (☎)187-0044 小平市喜平
町3-1-6 204
(TEL)042-323-6549
(FAX)042-323-6549

☐ breezy@msj.biglobe.ne.jp

*現地集合、現地解散

*申込者に詳細を送ります

◆イタリア、ドロミテを歩く

集友委員会

トレッキング、フェラータとベネツィア観光。ロープや梯子で安全確保されたルートでガイド付き。

3コースを設定。

日時 8月17日(月)～26日(水)10日間

A・ドライチンネ1周ほかトレッキング

B・Aコースとフェラータのクリスタル山群を登攀

C・AまたはBとオプシヨンのマルモラーダ登頂

費用 約53万円

定員 15名

申込 植木淑美宛

(☎)042-734-1498

☐ yoshimidenai@com.home.ne.jp

*問合・申込者に詳細を送ります

第6回土曜懇話会 集友委員会

北アルプス燕岳で創業88年を迎える燕山荘の3代目オーナー、赤沼健全会員をお迎えして、山小屋主人の眼を通して観た自然と人の関わり、登山者と山小屋の交わりなどのお話を伺い、併せて大正時代の黎明期北アルプス登山の貴重

な記録映画を上映いたします。

日時 7月4日(土) 午後3時

場所 日本山岳会104号室

テーマ 山の自然と登山者の関り

問合 下河辺史郎(集友委員長)

(☎)03-3408-6519

☐ s-shimo@ig8.so-net.ne.jp

◆土曜放談会のお知らせ

土曜会

日時 5月30日(土)15時より

場所 日本山岳会集友会室

費用 1000円(酒、肴あり)

問合 箕岡三穂

(☎)042-776-1788

☐ kjic1937@theia.ocn.ne.jp

*どなたでも参加できます

◆「厳冬のヒマラヤ、巨大岩壁に挑む」写真展開催

東海支部冬季ローツエ南壁登山隊、田辺治氏の写真展です。

日時 6月9日(火)～14日(日)

会場 日本基督教団銀座教会東京福音会センター ギャラ

リアアガプー(銀座4丁目

2-1、営団地下鉄銀座駅

C8出口より)

*6月3日(土)16時30分～18時30分

会場地下1階にて田辺治によ

る講演会を開催。入場無料

問合 03-3561-2910

(銀座教会)

◆「日本山岳画協会」定例展

山を愛し、山を描きつづけている画家たちの集まりです。

日時 7月5日(日)～11日(土)11時

18時30分まで(5日は正午

から、11日は17時まで)

会場 交通会館 B F ゴールドサ

ロン (TEL)03-3215-7

933)

問合 牧潤一まで (TEL)049-26

4-7369)

*入場無料

◆「第3回田淵行男賞」作品募集

田淵行男記念館

館は2010年7月7日に開館

20周年を迎えます。これを記念し、

田淵行男の偉業を讃え、新人発掘

の場とするため、「第3回 田淵行

男賞」と称し写真作品を公募しま

す。山岳、動植物の生態、自然環

境に関することなどを記録したも

のをテーマとし、作品は5枚以上

20枚以内で構成される組写真を1

点とします。

募集期間 7月1日～10年2月末

奇石博物館



山の博物館訪問



観覧料 大人700円、小中生 300円
休館日 毎週水曜日、7/20～8/31は
 無休館
情報 第2・4土曜日と5/5は
 小中高生無料
 （団体割引、その他お問い合わせください）
交通 東名高速富士インターより車約30
 分、中央高速河口湖インターより車約60分、
 JR東海道新幹線新富士駅よりタクシー約40
 分、JR身延線富士宮駅よりタクシー約20分

静岡県富士宮市山宮3670
TEL : 0544-58-3830 **FAX** : 0544-58-5061
URL : <http://www.kiseki-jp.com>

不思議いっぱい奇石博物館

日本列島はアジア大陸東側の一部が割れて分離し、そこへ赤道方向からプレート運動によって運ばれてきた島が貼り付いて出来ています。日本の山岳地帯は火山が多く、美しい地形や温泉をつくり、四季の変化と自然景観の織りなす山の魅力を生み出しています。これらはプレート運動やそれに伴う火山活動などの地球のダイナミズムな活動によってもたらされたもので、私たちはその恩恵に浴し、日本人の自然観と文化を作り上げてきました。当館の展示はそうした地球のダイナミックな変動を河原に転がっている石ころから、あるいは山や鉱山の坑道で見つけた普通の石ころから語りかけようとするものです。

食い違い石（写真参照）というのがあります。これは断層の境目にあった石が押しつぶされて出来た石ですが、この石から日本列島がプレート運動の圧縮によって押しつぶされていることを読みとることが出来ます。今も中央アルプスはこの力で年間数センチ高くなっています。この様に一つの石から大きな地球の活動を垣間見ることが出来ます。

展示は「食べ物に因んだ奇石」や「植物に因んだ奇石」「光る石」など1ケース1テーマで不思議な石達を紹介しています。来館者にコンニャク石やテレビ石など代表的な奇石を学芸スタッフが実演公開する「解説コーナー」は開館以来続くサービスで、この説明を聞き「石って意外と面白いね」という印象を持たれる方がたくさんいます。また、附属施設の「宝石わくわく広場」は宝石探しが楽しめる参加型の人気施設です。

今、奇石博物館では日本百名山に焦点を当てた展示計画を進めています。地球の営みから出来た石達に自分の山のことを語らせたいと思います。もしその山頂の石をお持ちで寄贈いただける方がおられましたらご協力下さい。

当館は、財団法人石の博物館により運営されています。

日

*詳細はHP参照、問合せにて対応
 問合せ 田淵行男記念館 **TEL & FAX** 0
 26317219964

<http://azuminoartline.net/tabuchi/>

◆「我がまち自慢の富士山」写真
 展作品募集について

文化庁 静岡県

裾野市 裾野市教育委員会

富士山をはじめ、各地で「○○

富士」と呼ばれている各山の写真を

募集。あなたの暮らす町から望

む「心の富士」を、自信と愛着を

もって紹介してください。

募集期間 5月1日～8月30日

写真展 10月24日～11月1日（裾

野市民文化センター展示

室）

問合せ 裾野市立富士山資料館 第

24回国民文化祭裾野市実

行委員会 井上宛 **TEL & FAX**

055-998-1325

<http://www.city.susono.shizuoka.jp>

◆転居

伏見碩二氏が国際山岳博物館学

芸員に赴任したため、伏見紀子氏

の住所が変わりました。

Fushimi Michiko

Sub-Metropolitan city-17,

Gharipatan, Pokhara Home

Patnam, Nepal

◆編集後記◆

●「山岳界のアカデミー賞」とも

言われるピオレドール（黄金のピ

ッケル）賞に、日本隊のランカ

北壁とカメット南東壁各初登攀が

選ばれました。昨年の年次晩餐会

や会報『山』などでも取り上げて

きただけに、とてもうれしいニュ

ースです。今月号で速報をと思い

ましたが、来月、詳しく報告して

もらおうと思います。

●映画『剣岳 点の記』が、6月

20日の上映を前にちよつとした話

題になっています。映画では、小

島鳥水はじめ山岳会の会員も重要

な役を与えられています。試写会

の感想をもとに、映画の魅力を語

ってもらいました。

●中村テルさんが、4月29日、1

00歳で亡くなりました。山岳

会の歴史を体現された方がまた逝

つてしまいました。（神長幹雄）

日本山岳会会報 山 768号

2009年（平成21年）5月20日発行
 発行所 社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 宮下秀樹
 編集人 神長幹雄
 Eメール jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社